

# 震災後の子どもたちのこころの 問題や子育ての問題について

平成24年度

子どものこころのケアチーム巡回  
子育て相談を実施して見えてきたこと

平成24年度保健福祉部業務研究等報告会

宮城県子ども総合センター 由井 幸子

# 1年目（平成23年度）

## 子どものこころのケアチーム

- 沿岸部を4ブロック（気仙沼・石巻・塩釜・岩沼）に分割。週1回～2週に1回の割合でケアチームを各ブロックに派遣。
- ケアチームの構成員  
児童精神科医、心理士、保健師、教員、保育士
- 実施場所  
保健センター、保健所、市役所・役場、学校、自宅等
- 内容
  - ① 保護者・子どもからの相談
  - ② 子どもに関わる教員・保育士・保健師等からの相談・事例検討・講話
  - ③ 保護者への講話・座談会

# 1年目（平成23年度） 子どものこころのケアチーム

\* 震災直後から半年間は、相談者が激増

- ・子どもの心の相談：実人数99名
  - ・母親の心の問題の相談：実人数4名
- 計 103名

\* 震災半年後からの半年間は、相談者が徐々に減少（上半期の半数）

- ・子どもの心の相談：実人数39名
  - ・母親の心の問題の相談：実人数12名
- 計 51名

☆母親の心の問題の相談は上半期より増加

# 2年目（平成24年度） 子どものこころのケアチーム

（1年目の実施結果を踏まえて）

- 未曾有の大災害を経験した子どもたちは被災地に沢山いて、震災の様々な影響による心の問題を抱えて生活していて、問題は潜在化していると思われる。
- 震災から時間が経過するにつれ、母の心の問題の相談が増加していることから、被災地では、震災後の母の育児ストレスが増していて、そうした子育ての問題に対応していくことで、潜在化している子どもの心の問題にアプローチできるのではないか？

# 2年目（平成24年度） 子どものこころのケアチーム

## （方向性）

潜在化している子どもたちの心の問題により早期に対応していくために、保護者が抵抗なく子育てのことから相談できるような相談体制を設ける。

## （相談体制）

子どものこころのケアチーム巡回相談を、心理士・保健師・保育士等による「子育て相談」と、児童精神科医・心理士による「子どものこころの相談」に分けて実施する。

# 子どものこころのケアチーム 巡回子育て相談

## (実施場所)

被災地域の市町保健センターや子育て支援センター、児童館、仮設住宅の集会所等、子育て中の親子が子どもを連れて気軽に遊びに訪れるところを巡回する。

## (実施方法・内容)

- ・相談の持ち方については、被災市町と連携・相談の上決定し、定期的・継続的な相談を実施する。
- ・個別、または座談会等で、内容を問わず子育ての悩みに関する相談に応じる。
- ・子育てに困難を感じている保護者のグループを対象とした支援(親子遊びを通じたケア・相談)等、市町の関係者を支援する形で実施する。

# 相談実績(24年度12月末現在)

## 巡回子育て相談における個別相談

(人)

地区名	実人数	(再掲:親の人数)	延人数
岩沼地区	22	(1)	22
塩釜地区	17	(3)	18
石巻地区	32	(2)	33
気仙沼地区	26	(3)	33
計	97	(9)	106

# まとめ

## 「震災後の子育てで困っていること」

### 子ども側の問題

- ・「困った行動・気になる行動」の相談を40%近くの方がしており、最も多い。

「癩癩、暴れる、いうことを聞かない」、「落ち着きない・多動」、「家で奇声や大声を出す」、「夜泣き」等の、親が対応に苦慮する行動が多く、半数以上の方が何らかの被災しており、1／3以上の方が仮設住宅で生活している。



# まとめ

## 「震災後の子育てで困っていること」

### 子ども側の問題

- ・「子どもの発達や日常生活に関すること」の相談は、相談した方の中で被災している方が80%を占めている。

「発達の問題」の他、「断乳がうまくできない」、「トイレトレーニングがうまくいかない」、「食事や栄養に関することが気になる」等、毎日の子育ての中で親が取り組まなければならないことについて、相談者の半数の方が仮設住宅に入居しながらの子育てであり、対応に苦慮していると思われる。特に、断乳については、隣人への遠慮があり、泣かせたら迷惑がかかると思い、思うように取り組めないでいる方が目立った。

# まとめ

## 「震災後の子育てで困っていること」

### 親側の問題

- ・「親のストレス・精神不安定・心身疲労」の相談が最も多い。

「母がイライラし、怒鳴ったり叩いたりして子どもに当たる」と相談してきた方は、ストレスや精神不安定、心身疲労がある方の約半数にあたる。

\* 子ども側の問題で、「癩癩、暴れる、いうことを聞かない」、「落ち着きない・多動」、「家で奇声や大声を出す」、「夜泣き」等の、親が対応に苦慮する行動が最も多いことが、母がイライラして子どもを怒鳴ったり、叩いたり、世話ができなかったりすることに影響していると考えられる。

# より多くの方が、震災後の子どもと親子の こころのケアにつながっていくために

「子育て相談」で大切にしていることを忘れずに！

- ・親子で気軽に遊びに訪れる場所で、子育てで困っていること何でも話してもらってよいことを伝え続けること。
- ・相談は、遊んでいる親子に寄り添うことから始まること。  
一緒に遊ぶことが子どもと親の心のケアにも繋がるので、一緒に遊ぶことを大切にすること。
- ・地域で普段から親子を見守り、支援している支援者との連携を大切にし、相談を受けた方が継続支援されるよう、地域の支援者につないでいくこと。